

まなび通信



R4年度 2学期号
発行者:小津中 まなび担当

小津中の「学びのサイクル」効果を検証！ 全国学力調査・中3チャレンジテスト 44期生3年間で学力大幅に向上

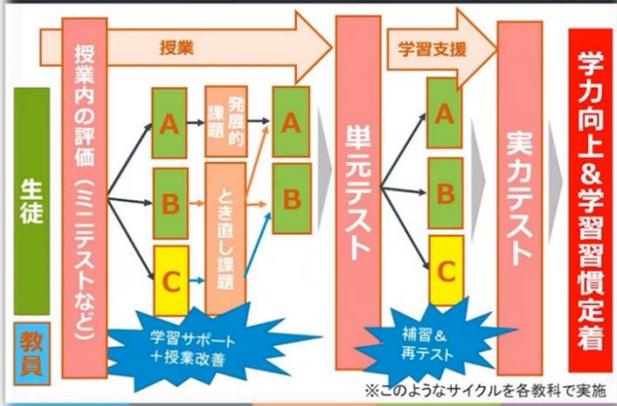
今回は、現3年生(44期生)が、小津中学校の3年間でどのような学びをしてきたのか。それによって、1年時からどれだけ学力が成長したのかを見ていくことで、ここ2年間の小津中学校の取り組みを検証したいと思います。

小津中学校では、生徒の学力を高めるための大幅な「学びの改革」を令和3年度から行っています。

それが、定期テストの廃止です。きめ細やかな評価と、学習内容の着実な定着をめざし、単元テストと授業内の評価をもとに何度も学び直すことができる「学びのサイクル」をつくってきました。また、水曜日を原則として5時間授業とし、放課後学習「OZU チャレ OZU サポ」を実施。学習支援体制を充実させてきました。

現3年生は、2年生になったとき、最初は戸惑っている様子がありました。これで本当に学力が上がるか、不安感もあったことと思います。

(例:数学) 授業→評価→学習支援 の流れ



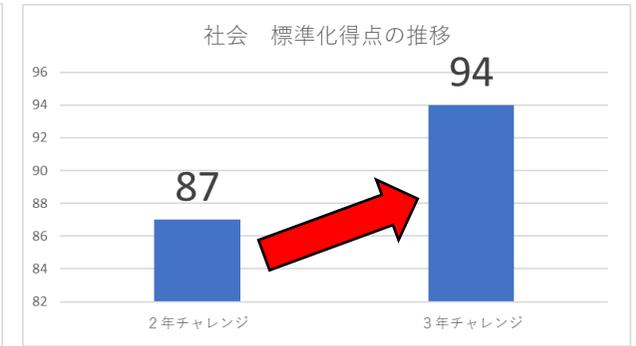
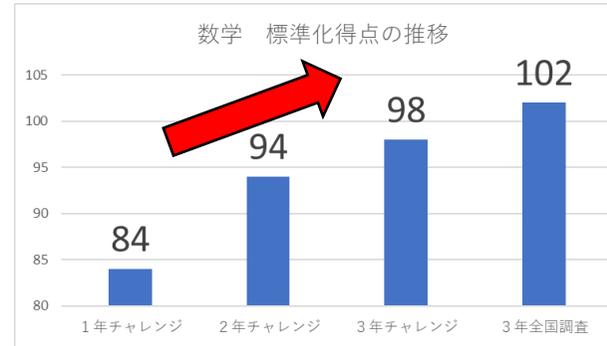
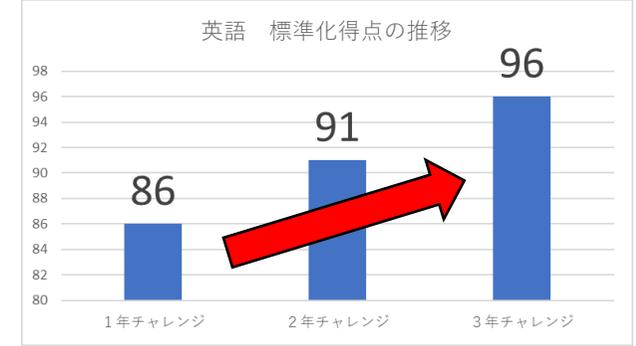
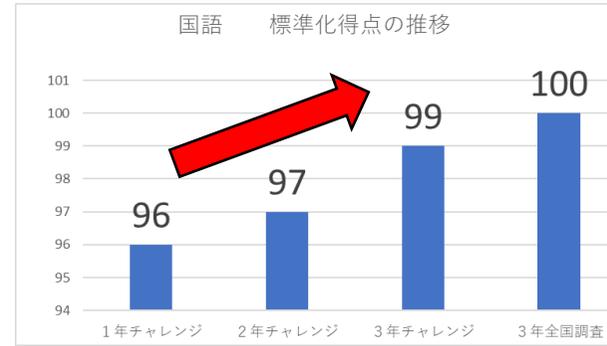
※このようなサイクルを各教科で実施

しかし、44期生の皆は、しっかりと「変わりゆく小津の学び」に対応し、自律して学ぶ力を身につけてきました。

その結果、全国学力・学習状況調査や3年間受けてきたチャレンジテストの結果の分析でも、小津中学校44期生が、3年間かけて着実に学力を伸ばしてきたことが分かります。

次に示すのは、現3年生(44期生)において、学力の推移(標準化得点の推移)をまとめたものです。グラフ化してみると、一目瞭然です!!

★現3年生(44期生) 学力の推移のグラフ



《参考》令和4年度 小津中学校44期生【平均点】

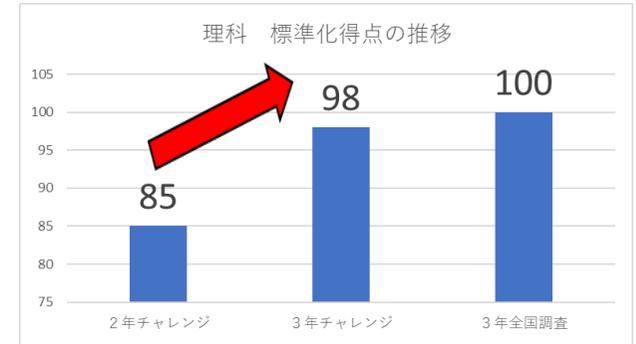
◇全国学力・学習状況調査

科目	国語	数学	理科
平均点	67	52	47

◇チャレンジテスト

	国語	数学	理科	社会	英語
1年	53.8	45.2			54.7
2年	57.0	45.5	45.3	56.7	53.2
3年	53.4	55	55.7	52.1	52.1

調査問題・大阪府平均等はwebサイトを参照ください。



※標準化得点…基礎自治体を100としたときの、該当校の到達度を示したもの(ここでは大阪府平均を100としています)。

OZUチャレ / OZUサポ

取組み(R3) ※5時限とした水曜日の放課後等に実施

OZUチャレ…学習会/質問会
・プリント学習・タブレット学習
・生徒の質問に答える

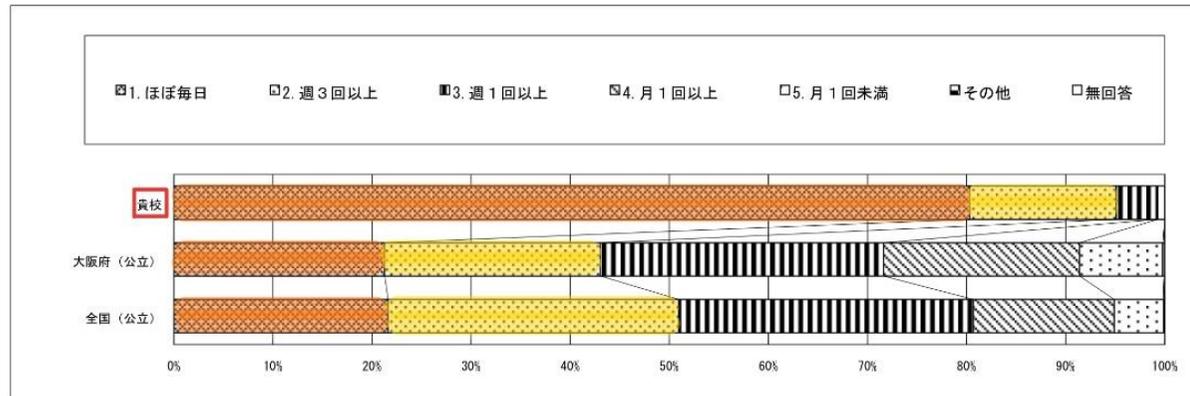
OZUサポ
…復習中心の**学習支援会**
・「努力を要する」生徒を抽出
・学習後、適宜再テストを実施



この結果を見て驚くのが、「国数英理社の5科すべてで学力が向上した」ことです。1年生の頃とは比べものにならないほど44期生は成長しました。小津中学校の学びのサイクルに対応することで、着実に力をつけてきたことが、この結果に表れています。

★学力調査のアンケート結果から見た取り組みの成果

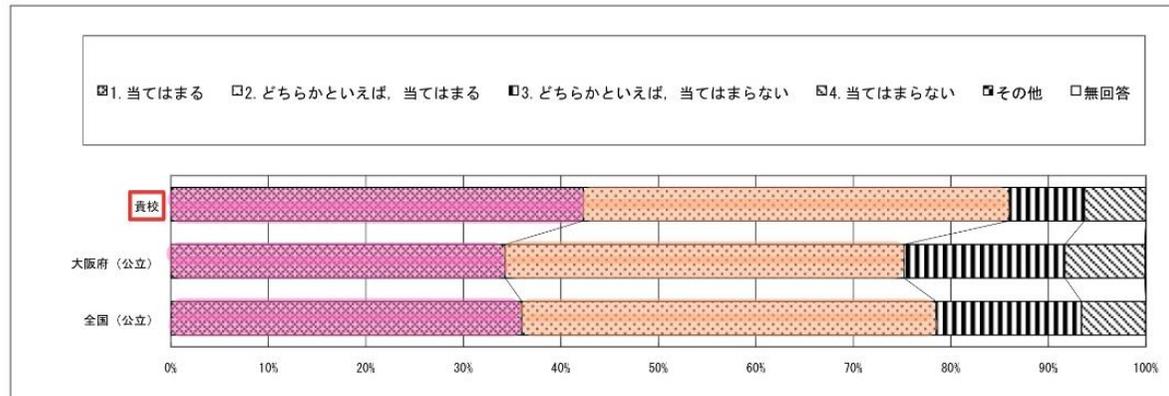
◇「1、2年生に受けた授業で、タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか。」



近隣のどの学校よりもICT活用が進む小津中学校。写真は、学習支援ツール「ロイロノート」を積極的に授業で活用する様子です。自分の考えをアウトプットしたり、調べたことをまとめたりすることに役立っています。3年間かけて、確かな情報活用能力を身に付けることができました。



◇「自分には、よいところがあると思うか。」



自己肯定感、文部科学省も唱えている“学力につながる重要な指標”です。

小津で進めてきた、「生徒主体の取り組み」を各教科・領域でも意識してきたことで、生徒の自己肯定感・自己有用感が高まっている様子が見られます。



★学力調査・チャレンジテスト 両方の面から見た考察

成果 書く能力（記述力）・思考力や表現力 が大幅に高まる！！

(例)・学習状況調査 理科：問5(3)「測定値の増やし方」府平均+6.9の正答率
・チャレンジテスト 国語：問四4「条件つき作文」府平均+15.1の正答率



各教科で観察や実験の機会(効果的な班活動)を多く持つこと、毎時間自分の考えを自分の言葉でアウトプットする活動を意識してきたことなどが、学力向上の下支えとなりました。

課題 知識技能の定着にムラがある！！

(例)・学習状況調査 数学：問3「反例の意味の理解」府平均-15.1の正答率
問4「一次関数の変化の割合の理解」府平均+10.7の正答率

多くの教科で、知識が定着している部分とそうでない部分との差が激しく、知識定着のムラを感じます。

★小津中学校 今後の学びの方向性

*全体として、令和3年度から小津中学校で取り組んできた「学びのサイクル」が生徒に“バッチリはまっている”といえる結果となりました。

*学習状況調査・チャレンジテストともに、「学びの意欲」を示す指標ともなる無解答率が低い結果となりました。どんな取り組みも失敗をおそれず挑戦しよう!という声かけを先生たちも意識してきました。その結果、3年かけて、粘り強く学習に取り組む姿勢が生徒に浸透してきたことも、成長を感じる部分です。

*また、施設分離型小中一貫校として、小学校の先生と交流したり助言を受けたりしながら授業づくりを行う会議を実施しています。中学校の授業改善につながる有意義な会議なので、今後も進めていきたいです。

*今後の課題としては、知識技能の正答誤答にムラ(できている問い/できていない問いに極端な差)があることです。小津のよりよい学びの定着や積み上げをめざし、知識技能の一人ひとりに見合った学力向上のしかけ(個別最適化)を見据えたAIドリルを実証・検討中です(現在45期生で検証中)。